

【 経営情報教育研究領域 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
経営情報研究演習 I	4	アリ, ファテヘルアリム. F.	情報システム構築と活用 (Web アプリケーション, 計算知能, ネットワーク等) に関する研究を行う。
経営情報研究演習 I	4	宮平 栄治	研究演習 I では, 修士論文の作成方法と目的を学ぶ。すなわち, これから深めようとする領域の全体像を把握するとともに, 極めようとする分野と全体との関連性を体得する。修士論文作成は, 理論, 比較, 実証, および事例研究の基礎作りでもある。そのため, 研究演習 I では関連領域の学問体系の把握に努め, 把握後は各自のテーマに適した研究方法で修士論文作成を行う。すなわち, 文献研究では, オリジナルな内容を伝える原著や原論文をまとめ, 多角的視点から研究を行わねばならない。
経営情報研究演習 I	4	金城 亮	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い, 理論的枠組みの強化をはかる。同時に, 妥当性・信頼性の高い測定尺度や実験課題等の収集/開発を行うために, 予備的なデータ収集と分析を実施する。さらに, 種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。
経営情報研究演習 I	4	中里 収	本演習では, 音声対話・表情・ジェスチャーといった, コミュニケーションに関する現象を扱う。 コミュニケーションシステムの開発を題材にして, 実験計画, データ分析, プログラミング技法および研究方法を習得する。 前半は, 主に文献研究, 発表練習などをおこなう。 後半はシステム設計, プログラミング技法, システム評価などについて演習する。
経営情報研究演習 I	4	木村 堅一	本演習は, 社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て, それらの先行研究の読解・分析, 仮説の発展, 研究目的と手法の選択, 行動の数量化, 仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で, 各自で研究計画を決定, 実行を指導する。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
経営情報研究演習Ⅰ	4	仲尾次 洋子	本演習では、会計分野（財務会計や国際会計）における文献研究を行うとともに、修士論文の作成方法を習得する。
経営情報研究演習Ⅱ	4	アリ, ファテヘルアリム. F.	修士論文作成に向けた研究とその成果を発表し、修士論文を完成させる。
経営情報研究演習Ⅱ	4	宮平 栄治	研究演習Ⅱでは研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。
経営情報研究演習Ⅱ	4	金城 亮	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習Ⅰを履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習Ⅰにおいて設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。
経営情報研究演習Ⅱ	4	中里 収	本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱う。コミュニケーションシステムの開発を題材にして、研究方法や論文執筆の手順を習得する。前半はシステム設計、システム評価実験などの演習を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。
経営情報研究演習Ⅱ	4	木村 堅一	本演習は、経営情報研究演習Ⅰ（木村担当）に引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。
経営情報研究演習Ⅱ	4	仲尾次 洋子	本演習では、研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みをベースに修士論文を作成する。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
経営活動情報特論	2	田邊 勝義	<p>情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策について考察する。</p> <p>毎回、ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を読んできて発表し、意見交換する形式および最近のトピックの中から選定した題材について調べ、発表し、意見交換する。</p> <p>情報化社会における経営活動の変化を絶えず推し進めてくる大きな力を感じ取り、それが動いていく方向を読み取る目を養う。伝統的な理論に対し疑問点を見つけ、自分なりの切り口や独自性を出した理論を考える姿勢を身につけることを期待する。</p>
地域活性化特論	2	宮平 栄治	<p>沖縄県は島嶼県であり、地域活性化においても他地域とは異なる手法が必要である。そのため沖縄県においては一般的な地域活性化策を踏まえ沖縄県の特性を加味した地域活性のあり方が必要である。本講義においては、前述の沖縄県の地域特性を踏まえつつ、地域の概念と活性化の概念についての経済理論、マーケティング論およびわが国や諸外国の地域活性化策の推移から把握し、地域活性化についての概念と目標を確定する。確定後は、事例研究をとおして地域活性化においては、その地域の持つ地域資源の発見と商品化と産業化の必要性を理解する。商品化と産業化における比較優位性理論とマーケティングによる販売促進の重要性を学ぶ。また、地域活性化の担い手としての官・民・企業およびNPOの目標の共有化、リスク分散と協業の必要性を理解することである。</p>
経営戦略特論	2	林 優子	<p>この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めていく。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中での採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。</p>
ネットワーク産業特論	2	宮平 栄治	<p>この講義では、情報時代における市場、産業および企業の特徴、企業戦略と産業育成、誘致および連携に関して、経済学の諸原理を援用させながら、市場、産業および企業を考察する。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
情報交流特論	2	中里 収	<p>本講では、人間同士の音声対話および人とコンピューターとの音声対話について研究する。前半は計算機上でどのようにして音声データが処理されるかを学習する。後半は対話の理論を踏まえた上で、実際に対話データを収集・分析してみる。人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。また、この講義を通して、文献検索、データ処理、プレゼンテーション方法を学ぶ機会とする。「過去の事例を調査し論理的に思考し、わかりやすく説明する」という訓練でもある。</p>
小集団心理学特論	2	金城 亮	<p>本特論では、集団、特に継続的な対面的相互作用のある「小集団」のダイナミクスに焦点をあてた議論を展開する。講義計画の前半では、小集団のグループ・ダイナミクス研究領域において、重要な諸変数を扱った研究事例をレビューする。後半はクラスで選定したテーマに沿って、実際の研究計画を策定し、データ収集ならびに統計分析を行う演習を実施する。それらを通して、効果的な集団活動のあり方について検討する。</p>
人的資源管理特論	2	金城 亮	<p>この講義科目では、人的資源をいかに管理するかというテーマに関して、人的資源管理論および組織行動論の見地から問題を発見・考察すると同時に、効果的な管理方法を学習する。さらに産業組織心理学の知見に基づき、ワーク・モチベーションや組織コミットメントなど被雇用者の観点からみた人的資源管理の課題を検討する。また、組織の情報化に伴って変化しつつある人事情報管理についても考察を深める。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
比較経営学特論	2	宮城 敏郎	<p>経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R. H. コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O. E. ウイリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A. D. チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優越していることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済的システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。</p> <p>本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。</p>
e-ビジネス特論	2	田邊 勝義	<p>インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講義では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスへの参入方法、Webマーケティング、e-ビジネスの背景にあるテクノロジー等を学ぶと共に、インターネットにおけるビジネスモデルについて考察していく。</p>
情報知能特論	2	アリ, ファテヘルアリム. F.	<p>計算機による知識情報処理の基本的考え方、方法論、応用、更にはその論文等の読みとまとめについて学ぶ。</p>
会計学特論	2	仲尾次 洋子	<p>企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の実績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとしてIFRS（国際財務報告基準）の導入が必要とされている。本講義では、IFRSを念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、ケーススタディを行う。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
国際マーケティング特論	2	平敷 徹男	<p>本講の主眼は、マーケティング概念の理解をもとに、ボーダーレスに展開されるマーケティング問題の考察にある。否応なく、国際競争に巻き込まれるグローバル化時代における各種類組織のマーケティング問題を実践に即しつつ、理論的・体系的に学ぶ。文化、経済、政治的環境等々国内マーケティングと違う複雑な環境下におけるマーケティングの展開を国・地域間の共生を視野に入れて考えてみたい。</p>
システム・シンキング特論	2	宮平 栄治	<p>経済政策や経営戦略を行った場合、当初の計画では予期しない副作用、競争相手からの反撃などに遭遇する。そのような計画を行う際、ブレインストーミング法、KJ法やロジカルツリー等で十分検討したはずである。何故そのような意図しない結果が生ずるのかについて、我々の社会におけるフィールドバッグ、相互依存、経路依存性やタイムラブなどの複雑な動きを加味したのがシステム・シンキングである。</p>
情報・通信技術特論	2	アリ, ファテヘルアリム. F.	<p>Theoretical and experimental design of telecommunication and data communication systems are discussed. Standards for systems and networks, and regulations governing various issues in telecommunication sectors are explained. Legal issues related to applications are also investigated.</p>